

★ タイムスケジュール (予定)

- | | | | |
|----------------|------------|----------------|------------|
| 1. 10:00~11:50 | 横瀬 敏志 先生 | 4. 13:40~14:40 | 田中 真喜 先生 |
| 2. 11:50~12:40 | < 昼食 50分 > | 5. 14:40~15:00 | < 休憩 20分 > |
| 3. 12:40~13:40 | 大野 素史 先生 | 6. 15:00~16:00 | ディスカッション |



横瀬 敏志 先生

城西歯科大学 (明海大学歯学部) 卒業
 ・スペースシャトル宇宙開発の為
 米国NASAへ派遣
 ・日本レーザー歯学会 評議員
 日本歯科保存学会 理事
 <現在> 奥羽大学歯学部歯科保存学 教授

これまでに多くの先生から『炭酸ガスレーザーにはエビデンスがあるのか?』『エルビウムとの違いは?』『インプラント治療への応用は?』『照射に際しての留意点は?』等、疑問が寄せられてきた。我々はこれらの疑問に対して、炭酸ガスレーザーの細胞生物学的な作用を分子レベルで検討し、科学的根拠に基づいて答えられるエビデンスを学会、論文に発表してきた。特に骨組織に対して、炭酸ガスレーザーをメカニカルフォースとして捉え Wolff の法則に従い、骨組織を再生できることがわかった。そこで私たちはレーザーを新たな骨組織再生療法の一つとして L.I.B.T. (Laser Induced Bone Therapy) という概念を提案した。本講演では、これまでのデータに加えて新たに骨組織での炭酸ガスレーザーの最新研究結果と、これに基づいた一般臨床での照射方法と注意点を紹介し、炭酸ガスレーザーの可能性について解説します。



大野 素史 先生

国際口腔インプラント学会 ICOI 指導医
 日本口腔インプラント学会 専門医
 ニューヨーク大学インプラント CED 卒業
 静岡県口腔インプラント研究会 理事
 ADIA 認定医

『治療を効率化するために、いかに歯科用レーザーを応用するか』
 歯科口腔領域におけるレーザーの応用は 1960 年に Maiman によって開発されたルビーレーザーを応用した実験から始まったが、歯牙組織に対する熱変性などの問題もあり実用には程遠い状態であった。それから 50 年以上経過した今日、開業医の 30% がレーザー治療機器を保有している普及率となった。その中でも炭酸ガスレーザーが一番多く導入されており 61% を占めている。当院でも、開業と同時に炭酸ガスレーザーを臨床応用しているが、組織治療の速さ、軟組織への応用が特徴的であろう。インプラントや歯周治療以外にも応用し一定の成果をあげており、治療のスピード化に貢献しています。今回は、治療の効率化を視点に症例を通して炭酸ガスレーザーの有用性を発表させていただきます。



田中 真喜 先生

横浜吉野歯科診療所
 歯周病インプラントセンター勤務
 日本歯周病学会 専門医
 日本臨床歯周病学会 認定医
 アメリカ歯周病学会 会員

炭酸ガスレーザーと聞くと、インプラントや補綴前処置としての軟組織のマネージメントに使用する、と言うイメージが強いのではないのでしょうか?しかし、炭酸ガスレーザーには様々な用途があり、その特徴を知り上手に使う事で切開から組織の治療促進まで様々な効果を期待することができます。当診療所に炭酸ガスレーザーを導入してから、私の日常臨床で登場回数がとても多く、今では使用しない事が考えられなくなりました。今回は象牙質知覚過敏症や口内炎の急性疼痛緩和から、歯周外科・インプラント外科などの外科治療における活用法を実際の症例を用いて講演したいと存じます。先生方のご指導・ご批判を賜りたいと存じます。